

四つ葉のクローバー

発行所
桐生厚生総合病院 中央検査部
責任者 吉田カツ江
2008年7月発行

理念 「臨床検査の質的向上と信頼性の確保」
年度目標 「スキルアップを目指し患者サービスとチーム医療に貢献する」



今回は近年増加しつつある

乳がんの検査

について紹介します。

日本人の乳癌は白人に比べて少ないと言われてきましたが、近年その数は増加傾向にあります。乳癌罹患率は欧米では人口10万人対100~200人ですが、アジア諸国では人口10万人対10~20です。日本人の乳癌の罹患率は、胃癌の罹患率を抜いて女性罹患率の第1位となることが予想されています。これは環境要因、生活習慣の欧米化により、食事中的動物性脂肪の摂取量が増えていたことに起因すると言われています。

《乳がんの検査》

1 視・触診

医師が乳房全体を目で見たり、手で触れて乳房の形、皮膚、乳頭などに異常がないか、またしこりがないか調べる検査です。(生理のある方では、乳腺のはれが落ち着く生理後4~5日頃に受診なさることが望ましいです。)

2 マンモグラフィ(乳房エックス線撮影)

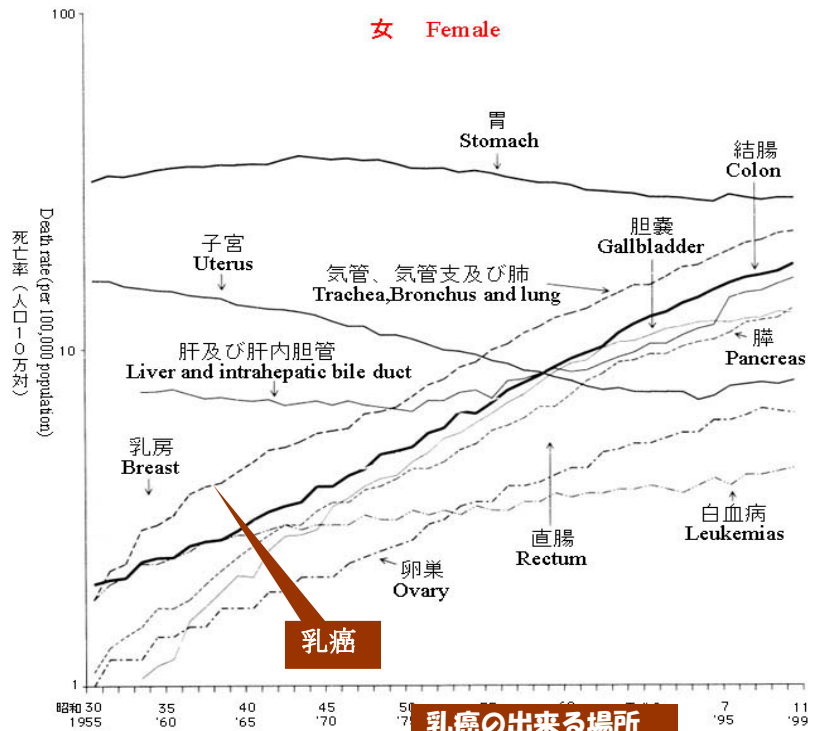
触診では見つからないような小さなしこりや乳がんの初期症状としてみられる石灰化を見つけることができる検査で、乳房を圧迫しながら特殊なレントゲン装置で撮影します。乳房を圧迫するので痛みをとまなう場合があります。

3 超音波検査(エコー)

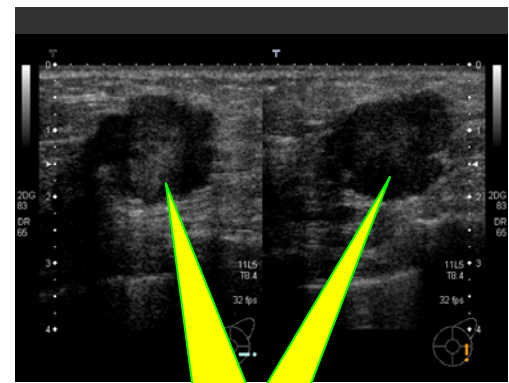
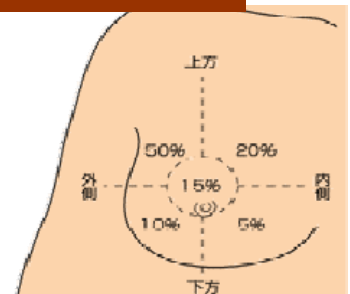
乳房に超音波を当ててその反射波を画像にし、しこりの存在と内部の様子を確認します。しこりの性質もある程度はわかります。放射線を使わないので被爆の心配がなく、繰り返し検査することができます。検査に伴う痛みはありません。当院では、中央検査部の女性の臨床検査技師が検査を担当しています。

超音波検査 Q&A

- Q 具体的な検査方法は？
A 仰向けにベッドに横になります。両手を万歳の姿勢にあげ、乳房が平らになる姿勢をとります。乳房に薄くゼリーを塗り、プローブ(超音波を出し、反射音響を受信する装置)を当てて乳房の表面から検査します。
- Q 超音波検査にはどのくらい時間がかかりますか？
A 何も異常のない場合、検査時間は両側の乳房で5分~10分程度です。
- Q 超音波検査は痛くありませんか？
A 痛みはほとんどありません。
- Q 超音波検査の利点は何ですか？
A 被爆しないことから繰り返し検査できます。また、圧迫しないので痛みは無いことが挙げられます。



乳癌の出来る場所



乳癌超音波写真像

4 細胞診検査

視・触診や画像検査でしこりが見つかり、がんととの区別が必要な場合には、しこりに注射針を刺し、吸引した細胞を顕微鏡で観察する検査です（穿刺吸引細胞診断）。しこりに針を刺す時には超音波を見ながら行う場合があります。また乳頭からの分泌物中の細胞も顕微鏡で観察します。細胞の特徴から良性か悪性か良悪の鑑別が困難かを判断します。これらの業務は臨床検査技師の中で別途細胞検査士（サイトスクリーナー）の資格を有する認定技師が担当しています。

5 病理組織検査

①針生検

細胞診検査で診断が出来ない時に、太目の針でしこりの一部を切り取って調べる検査です。まとまった組織を調べるので細胞診より確実な診断ができます。超音波やマンモグラフィでしこりを確認しながら行う検査で局所麻酔をします。

②摘出生検

局所麻酔下にしこりを取り出して組織検査を行います。腫瘍が確実に切除されていれば、100%診断可能です。

当院では、常時対応できるよう **2名の病理医が勤務**しています。

6 MRI

CTのような輪切り像に加えて、縦切り像も得ることができます。乳癌においては、乳腺の腫瘍の有無やリンパ節への転移を観察します。CTやレントゲンのように被爆することはありません。

7 腫瘍マーカー

血液や乳汁など体液に含まれる、腫瘍が分泌する特有の物質を測定します。腫瘍の有無や再発の発見にも役立ちます。

乳癌では **CEA** や **CA15-3** といわれる腫瘍マーカーが特有です。ただし、腫瘍マーカーは、癌があっても必ずしも上昇するとは限りません、また、癌以外でも異常値となることあるため、あくまで診断の助けとして用いることとなります。

《自己検診：早期発見のために》

《月に1回の自己チェック》

自己診断を続けることで、普段とは違う乳房の変化に気付くことができます。月に1回、下記の自己チェックを行う習慣を身に付けてください。

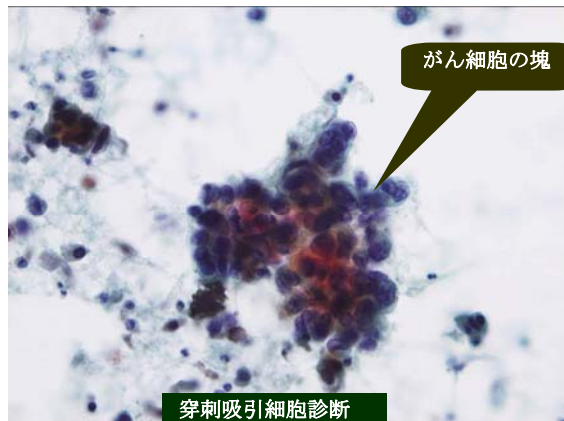
自己診断は、生理が終わってから後4~5日が適当です。

閉経後の人は、毎月、日を決めて行ってください。

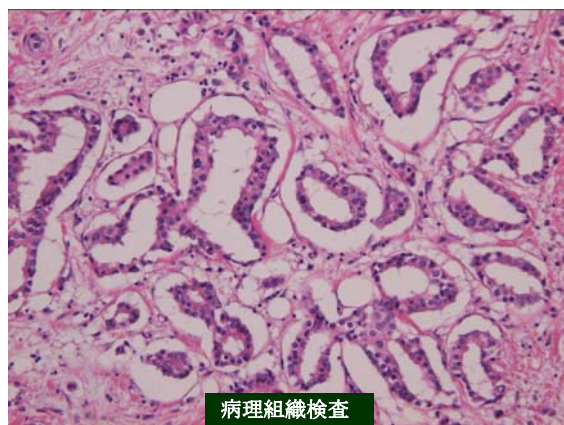
ポイント

仰向けになって、しこりをチェック

わきの下リンパ節と乳房をチェック



穿刺吸引細胞診断



病理組織検査



病理医と臨床検査技師のディスカッションの様子



当院では、上記腫瘍マーカー以外に、AFP、CA19-9、SCC、CA125、フェリチン、BMG、PSA、PIVKA II、FT3、FT4、TSH などの検査も、患者さんの外来診察に間に合うよう「外来迅速検査」として対応しています。

詳しくは、検査部内の採血室内に、検査基準値表などの資料と用意してありますので御利用ください。



「四つ葉のクローバー」は当院のホームページ（インターネット）で公開しています。ご参照ください。
ホームページアドレス <http://kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

検査結果は担当医へご質問ください 編集担当 立崎、竹内、小保方